

～人々の心を豊かにする地区・岡崎～

## 岡崎ホールディングス

中間報告書

---

### 社訓

先人の文化ゾーン岡崎地区に懸けた京都への愛を引き継いで、長きに渡る成果を出そう！  
岡崎全体を総合的に'経営'し、多くの人が集まるような魅力的な場所へ発展させよう！  
行政に要求するだけでなく、自分たちが動いて岡崎を発展させる応援体になろう！

支社(チーム分け)

京都市動物園チーム  
～市民の癒しと学びの場～

京都市美術館チーム  
～市民に優しい美術館～

### 社員

社長(リーダー) 丹羽 妙  
支社長(サブリーダー) 土岐 利加 動物園チーム  
支社長(サブリーダー) 八十山 和代 美術館チーム

美濃部 竜治	動・美チーム
乾 明紀	動・美チーム
土肥 真司	動・美チーム
井上 翔一	美術館チーム
栗山 文孝	美術館チーム
矢田 佳子	美術館チーム
山田 寛仁	動物園チーム

平成21年4月25日

## ～市民に優しい美術館～

京都市美術館チーム  
中間報告書

### はじめに

美術館という日本では美術が好きの人だけが行くと考えられがちですが、海外では、その街を知る為、自分の街に客人が訪れた際はまず美術館に足を案内するといいます。これは、「美術館のコレクションは、街の文化や歴史の蓄積であり、街のアイデンティティ」である為です。京都市美術館は学術レベルの高い美術館と評価されてきましたが、私達さらに飛躍し、「市民に優しい美術館」となることで京都の芸術を発展させ、ひいては明日への日本の活力になると考えています。「市民に優しい美術館」とは、今まで美術に興味を持たなかった市民も楽しみ、美大生やアートを志す市民にもホームとなる美術館です。私達は、美術館や行政の方との共汗により、実現のため行動していきます。

### 1. 京都市美術館の概要

#### ■沿革

歴史は古く昭和3年の昭和御大礼を機に、記念事業として建設が決定され同6年に着工、同8年に「大礼京都美術館」として竣工した。

大規模公立美術館としては日本で二番目に古く建築に際しても財界や京都市民の協力を得て開設されている。建築に関してはコンペを経て設計を前田健次郎が手掛け、コンペの条件である日本趣味意匠としてまとめられ、千鳥破風や階段室の天井スタンドグラス・格子天井などが現在までよく保存され同時代美術の展覧を想定していたので展示空間は現代では少ない自然光による採光を主としている。戦後、昭和27年に進駐軍の接收解除を機に京都市美術館と改称され現在に至る。

#### ■主な事業内容

・展覧会の開催(主催展・公募展・共催展) 調査研究・資料収集・作家活動の援助・普及活動・友の会

#### ■職員数 13名

#### 近年の来館者数

15年度	557,923 人	開館70周年記念特別展 ※南系統恒温恒湿設備改修工事
16年度	718,448 人	マルモッタン美術館展/フィレンツェ展
17年度	953,391 人	フィレンツェ展/ルーヴル美術館展(絵画)
18年度	768,510 人	ルーヴル美術館展/大エルミタージュ美術館展
19年度	908,255 人	大エルミタージュ美術館展/フィラデルフィア美術館展/北欧モダンデザイン&クラフト展
20年度	490,683 人	芸術都市パリの100年展 ※北系統恒温恒湿設備改修工事(貸し館の来館者を含まず)

#### 平成20年度

歳入 170,469,000 文化市民債 98,000,000

歳出 177,204,000 館内修繕 4,816,000 美術館再生事業 111,000,000 (円)

※京都市美術館様より頂いた資料に基づくデータ

#### ■美術館の中での京都市美術館の評価

京都市美術館は来館者数や総合的な評価において全国的に高い水準にあります。

- \* 日経新聞社調べの全国134美術館の調査 総合7位
- \* 評論家の評価・常設展の評価、利用者調査 10位
- \* 関西の美術館としては1位
- \* 問題点は施設の老朽化と京都市民による来館者の少なさ等



## 2. 京都市美術館チームの計画

### ■9月までの目標

- 一.美術館の職員の方々と共に京都の芸術発展のための新たな企画を計画し、スケジュールに入れる。
- 二.その実行部隊として岡崎ホールディングスが活動できる見通しを立てる。

### ■タイムスケジュール

1月	チーム発足
2月	理念作り
3月	美術館への現場検証会と方向修正
4月	中間報告の準備と協力体制作り
5月	具体案まとめ 現状の具体案及び今後出る具体案をまとめテーマを作成
6月	具体案絞込み テーマの順位を確定と実行可能な企画から進める為具体案を検証し絞込み。
7月	具体案打合せ 検証した具体案及びテーマ美術館スタッフの方々と共に検証する
8月	企画内容検証 最終的な企画内容をまとめる
9月	企画提出 企画を実行へ

※5月以降月一回美術館とディスカッションを行う。

### ■課題点

現計画は長期的なプランであり、9月以降も一層活発な活動の継続が望まれるが、次年度のメンバー参加が不明であり、かつ予算の補助に見通しが無いこと。

## 3. 現状の具体案

### i.市民が参加できる芸術の発表の場の開放

#### ■小中学生のアート参加

・常設展などで小中学生の展覧会

#### ■高校・専門学校・大学のアート強化

・各学校の卒業展の企画祭(審査の上数校の卒業展を同時期に行い市民による評価にて優秀校を決める等)

・職業としてのアーティストの育成

#### ■アートを志す人の窓口としての役割の強化

・京都の物作りや歴史ある町衆の民芸・工藝、若いアーティストの活動を京都ブランドとして発信する

※手作り市やギャラリー等にて作家活動を行う若い世代は年々増えているが作家と趣味の線引きをする評価はなく、その活動のボーダーとなる登竜門的な役割や道標としての展開も必要

### ii.京都市民への鑑賞教育の強化

#### ■ボランティア学生をガイド役として来館者が気軽に楽しめる環境作りで厳粛なイメージを刷新

※ひっそりと鑑賞する現状を検証し、話したり問いかけたり等積極的にアートに参加できる環境作り。

#### ■働く人々にも親しんでもらうべく週末や日を限定しての開館時間の延長

### iii.美術館前のスペースや裏の庭を活かした有効利用

#### ■美術館前広場でのパフォーマンスアート/飲食や、コンサートの展開/実演による物作りの展開

#### ■庭を使つての茶会/和の催しや企画/ガーデンアートの展開

### iv.京都市の取組むアートプロジェクト

市の行政内部にも検証してゆく機関を設け工藝などを含めた京都の地場産業の活性化を図る。

### v.予算や建築物の老朽化の問題をいかに解消して行くか等



#### 4.総括 21世紀にはアートを生かした高付加価値化が不可欠。京都をその拠点に。

2009年、経済不況は海外不況を発端に、日本国内においても深刻なダメージが避けられない現在の社会情勢は、20世紀型経済の破綻とも言われています。

これは戦後の日本が歩んできた高度成長の方向性がまさしく終わりを告げたと言っても過言ではないかもしれません。つまり、大量生産・大量消費は今の社会にはもう合わないのです。

元来日本は文化レベルの高い国民性でアートを庶民レベルで堪能しておりましたが、利便性を重視する経済の中、元々持っていた文化レベルは失われつつあるかと思われまます。

その例として不況の波が広まるとすぐにデフレが加速します。商品付加価値をその商品自体ではなく流通コストや大量生産でしかアピールできなくなってしまった現状はまさに退廃的です。

コストカット型の経済では大資本が残り、商品に自負を持って生産する産業や企業、中小企業には負荷が大きくなります。そして最終的には偽装や見えないコスト削減で市民に跳ねかかって来ます。

今の社会情勢では、もはやメーカーはプライドを以って生産し、ユーザーに見本を見せることは期待できません。むしろより安い事が正しい世の中となり、益々ゆとりや人々の繋がりは失われそうです。

「昔は良かった」と良く耳にします。それは人との繋がりが厚く市民みんながプライドを持って生活していたからではないでしょうか。かけ離れていると思われるかもしれませんが、ゆとり・プライド・文化レベルの高さを支えるのは技術力・デザインやアートによる付加価値だと思います。

京都は世界に誇れる物作りの街との声があります。

今だからこそコストパフォーマンスによる商品価値を押し出すのではなく、国内生産や技術力による付加価値を高めるべきだと思います。京都がモデルケースとなり、地場産業や商品のデザイン性・アート力・技術力による21世紀型の経済スタイルを推し進める時期だと考えます。

京都市美術館は、京都のアートの発展のために、京都の市民の寄付によって建てられました。

京都市美術館は、子供の情操・芸術教育・学生や若いアーティストの育成、京都に携わる高い技術力の産業や工芸の活性化など、京都市美術館が京都の芸術の発展の中心地としてさらに飛躍できます。

知人・友人が訪れた際はまず美術館へ足を運び、京都に来れば豊かさや高い文化レベルに触れられる、京都市美術館がそんな環境の中心となれることを願い、行動していきたいと思っております。

岡崎ホールディングスメンバー一同



## ～市民の癒しと学びの場へ～

京都市動物園チーム  
中間報告書

### はじめに

世界では動物園のあり方が国の文明度の一つの尺度となっていますが、京都市動物園は100年前に設立以降、大きな改革はなされませんでした。この度、京都市動物園が改築されると同時に、今年10月に「新・京都市動物園構想」を策定し、動物園の役割を改めて考え直すことになりました。私達は京都市民として、この動物園の改革・創造を応援し、京都市動物園が国際観光都市京都として相応しい動物園へと発展するよう行動していきます。

### 1. 私達の目指す京都市動物園の姿 ～市民の癒しと学びの場へ～

動物への対応の仕方が社会の道德感を表していることを踏まえて、動物行動学と動物福祉に基づいた動物園の設計・運営を基本に考えます。さらに街中の動物園として、市民の癒しと学びの場となって欲しいと考えています。具体的には以下の三つです。

- ①動物に接し命に触れ、命の大切さや弱い者へ労りの心を育む情操教育
- ②動植物の自然に触れ、自然環境保護の大切さを学んでもらう環境教育
- ③四季折々の自然を感じられる市民が憩える都会のオアシスとしての役割

### 2. 目標 ～短期目標と中長期の目標に分けて～

- 一. 「新・京都市動物園構想」に組み込まれる為のプランの提案
- 二. 行政との共汗により、市民が京都市動物園の為継続的に活動する仕組み作りの計画と実行

### 3. スケジュール

9月までのスケジュールは以下の通りです。

1月	チーム発足
2月	第一仮説作り
3月	現場検証会①・市民会傍聴・理念の修正
4月	動物園との第二質問会②・連携体制作り・中間報告の準備
5月	動物園とのディスカッション③・プランの検討
6月	動物園とのディスカッション④・プランのとりまとめ
7月	動物園とのディスカッション⑤・『新・京都市動物園構想』への提案提出
8月	動物園とのディスカッション⑥・パブリックコメント
9月	修正・まとめ・その後の行動準備

## 4. 具体案

### i. 岡崎地区を一体に考えたエリア構想

京都岡崎地区を、一つの大きな公園として考え、そのなかに美術館と動物園があるという構想を作り、岡崎地区の発信力を強化し、京都の文化ゾーンとして市民に認知して貰う。

動物園自身も、子供から高齢者まで幅広い層に愛される憩いと自然や動物のことを学べる場所に変え、近隣の施設との相乗効果が得られる。

- \* 疎水インクライン、南禅寺、哲学の道、平安神宮などとも結びつけた、寺社仏閣だけでなく新しい観光のコースの発信
- \* 動物園と美術館でのチケット共有化
- \* 動物園と美術館での敷地の一体化、岡崎道の歩道橋、トロッコ、ミニチュア汽車で往来

### ii. 行政との共汗により、市民が京都市動物園の為に継続的に活動する仕組み作りの計画と実行

京都市動物園の設立に掛かったお金の半分は市民の寄付によるものでしたが、設立以降、私達は京都市動物園の運営を行政に任せたままにしていました。市民も動物園を魅力的にするよう活動しながら学べる場所へしていく為、共汗活動を様々な場面で展開する。

- \* 学生等のボランティアによる造園活動
- \* 動物の見所解説ボランティアの育成
- \* 動物の写真を使った手帳やアドレス帳、カレンダーなどのグッズの製作

### iii. 動物本来の魅力を引き出せる動物園の設備設計

動物本来の生息地に近い自然環境を再現し、生き物にとっての生きる為の適正な環境を知ってもらうことで、自然環境保護、野生動物保護の大切さを知ってもらう。

- \* 動物のスペースは可能な限り鉄の檻、コンクリートを無くす
- \* 動物行動学と動物福祉の5つの自由を基本に設備設計・運営をする

#### 動物福祉の5つの自由

- ① 飢えと渇きからの自由
- ② 肉体的苦痛と不快からの自由
- ③ 外傷や疾病からの自由
- ④ 恐怖や不安からの自由
- ⑤ 正常な行動を表現する自由

#### iv. 地球上の生物の多様性についての情報発信

図書館運営を発展させ、動物を現場で見るだけでなく、来園を機会にさらに動物や自然への興味を深めてもらえるための活動として、様々な動物の情報を提供する。

- \* 今後の動物との共生をどうしていくのかのアイデア、意見募集コーナーの設置
- \* 動物、自然、植物、里山の生き物などの写真集・本などの販売
- \* それを使った手帳やアドレス帳 カレンダーなどの作品の展示即売

#### v. 造園や休憩所設置による憩いの場としての機能強化

園内の樹木は、現状は殺風景である。四季折々の花の木、実のなる木、植物。ハーブなど増やし、緑や自然豊かな公園の雰囲気ですベンチの設置など訪れる人が気持ちよく過ごせる園への工夫を行う。

- \* 学生等のボランティアによる造園活動
- \* おしゃれなカフェレストランを疎水側に
- \* 岡崎道側には京都風のそばと和風喫茶を設置
- \* 作業にはかわいいデザインの電気自動車の活用 園内の雰囲気づくりになる。

#### vi. 京都大学との連携を活用

京都大学との連携活動を活用し、アフリカなど海外での活動や野生生物の保全の研究成果を、来園者に紹介し、より良く自然と野生動物について学べるようにする。

- \* 園内に設置したTVによりビデオなどで公開。
- \* 園内の動物に関する研究発表のコーナーの設置
- \* 各動物の生態の説明をビデオや音声などで行う。

#### vii. 企業の協賛を積極的に取り入れる

動物園の事業の継続性と発展のために必要な経費確保のために必要な企業の協賛を模索する。

- \* 動物園にふさわしいエコ商品や展示の広告。  
EX. ネコワールドにタイガー魔法瓶、阪神タイガース、ライオン歯磨き
- \* 京都の森には京都のゆかりのある企業にローム、京セラ、任天堂、島津製作所